

＜災害から命を守るために＞

9月17日に避難訓練を行いました。訓練では「地震発生」の放送で、安全確保のために机の下に入りました。そして、地震が収まった後も教室で待機しましたが、「なぜ校庭へ避難しないのだろう」と不思議に思った人もいたかもしれません。

今回の訓練は、「大雨の中で大きな地震が発生した」という想定で行いました。川が増水している状況で地震が発生すると、堤防の損傷による洪水という二次災害が心配されます。そのため、すぐ外へ避難するのではなく、先生の指示を待つ形にしたのです。

ところで、「2000年9月11日」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。この日は東海豪雨が発生した日です。その26年後、先日の9月8日には、名古屋で1時間あたり100ミリを超える記録的な雨が降りました。自然災害は過去の出来事ではなく、今この瞬間にも起こり得るものだと実感した人も多いのではないのでしょうか。

	東海豪雨	9月8日豪雨
発生日月日	2000年9月11日	2026年9月8日
最大1時間雨量	97mm	105mm
2日間累積雨量	567mm	230mm

あの日、生徒の皆さんは大雨が激しくなる前に下校しました。しかし、家族が別々の場所にいる状況となり、不安を感じた人もいたと思います。兄弟姉妹が学校や保育施設に残っていたり、交通機関の乱れによって保護者の帰宅が遅くなったりした家庭もあったのではないのでしょうか。雨が激しくなる中、皆さんはどのように過ごしましたか。



※生成AIによるイメージ

- ・ 想定にとらわれるな
- ・ 最善を尽くせ
- ・ 率先避難者たれ

避難訓練では、「釜石の奇跡」を紹介した動画も視聴しました。東日本大震災の際、日頃から防災教育を受けていた釜石の子どもたちは、自ら危険を予測し、率先して避難することで多くの命を守りました。その防災教育の中で大切にされていたのが、この津波避難三原則です。もしも今回の豪雨がさらに長く続き、家にも水が入ってくるような状況になったとしたら、皆さんはどのように行動すればよいのでしょうか。津波被害三原則は、それを考えるヒントになるでしょう。

災害は大きな被害をもたらします。しかし、その経験は次の災害に備えるための大切な教訓にもなります。東海豪雨から26年の間に、名古屋市や周辺自治体では河川改修や排水施設の整備などの対策が進められてきました。その結果、今回の豪雨では地域によって冠水や浸水が見られたものの、比較的早い復旧につながりました。

一方で、どれだけ設備や施設が整っても、それだけで災害から命を守ることはできません。危険を正しく予測すること、早めに避難すること、家族や周囲の人と声を掛け合うことなど、皆さん一人一人の判断と行動が、自分や周囲の人の命を守ることにつながります。今回の豪雨や避難訓練をきっかけとして、災害から自分自身や大切な人の命を守るために何ができるのかを、考え続けてほしいと思います。



※生成AIによるイメージ